

【概要版】 東村簡易水道事業経営戦略_令和6年度改定版

経営戦略策定の趣旨

施設の拡張整備(水源開発・浄水場の新設又は既存施設の増設改良)や、老朽化した水道施設の更新に多額の費用が必要となるなど、今後の経営状況は厳しくなることが想定される。

こうした状況に対応し、事業を安定的に継続するためには、今後の施設、管路の更新の必要性和その財源を見極め、中長期的な将来を見据えた分析を行い、計画的な経営を行わなければならない。

今回、策定から4年を経過したこと及び令和6年度の公営企業会計移行を機に「東村簡易水道事業経営戦略」の改定を行う。

事業概要

① 給水

供用開始年月日	昭和50年4月1日	計画給水人口	1,770人
法適(全部・財務)・非適の区分	法適用(財務) ※令和6年4月1日より	現在給水人口	1,714人
		有収水量密度	384.4 m^3/km^2

② 施設

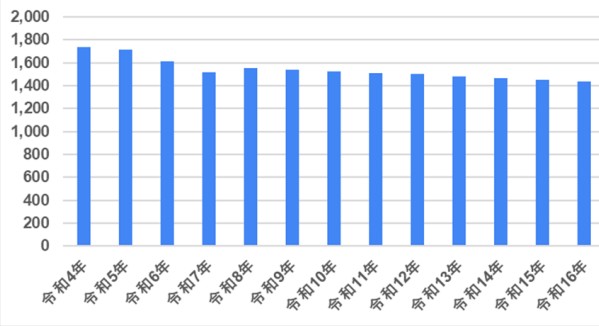
水源	☐ 表流水・ ☒ ダム・ ☐ 伏流水・ ☐ 地下水・ ☐ 受水・ ☐ その他 (複数選択可)				
施設数	浄水場設置数	1箇所	管路延長	69,435	千m
	配水池設置数	5箇所			
施設能力	1,575 $\text{m}^3/\text{日}$		施設利用率	66.8	%

経営目標

経営目標	達成水準	設定理由
利益水準	損益計算書を黒字とする。	事業を継続して運営するためには、黒字であることが絶対条件となります。ただし、現在の運営は一般会計からの繰入金に依存することで黒字を維持しているため、損益計算書の黒字を維持しながら、一般会計繰入金を低減することを目標とします。
管路更新	漏水管路の修繕と更新を行い、漏水を無くす。	漏水管路は配水地区親メーターの夜間水量の監視により地区内老朽管を重点管理し漏水箇所の発見に繋げ、修繕を実施し、夜間水量に変化がない場合は老朽管路の更新整備を行います。
設備更新	機械電気設備の修繕と更新で故障停止を無くす。	川田浄水場既設部分の老朽化機械電気設備更新は、浄水処理の安定と浄水水質の基準値を確保します。配水池・ポンプ場の老朽化機械電気設備の更新は、送配水の安定と水質を確保します。
浄水場拡張	拡張により水需要に応え、収益性を上げる。	慶佐次浄水場系の整備は取水・導水・浄水・送水配水の整備で、五味観光跡地リゾートの水需要に対応します。川田浄水場系の拡張整備は取水・導水・浄水・送水配水の整備で、ロラン局跡地利用開発の水需要に対応します。
送配水最適化	効率運転に努め、電力と薬品の消費低減を図る。	川田浄水場系の拡張整備に連動して、戻り配水等の不効率な運転を改め、エネルギー効率化と次亜塩素素注入量の縮減並びに美味しい水のサービス提供を実施します。

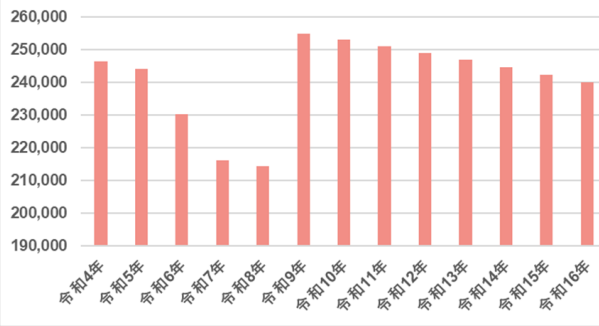
将来の事業環境

給水人口の予測



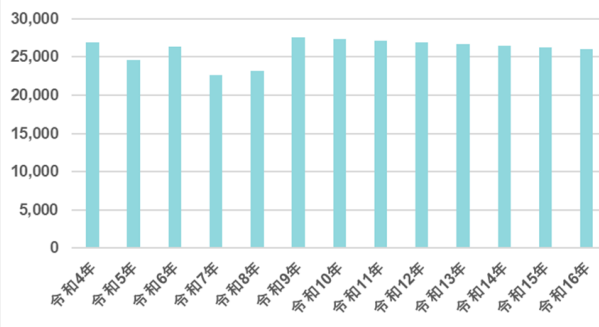
本村の給水率は100%であり、人口の増減と給水人口の増減が一致します。人口の減少傾向は続いており、計画期間においてはホテル開業に向けての人口増加が期待されるが、10年間の通算では減少となる見込みとなっている。

水需要の予測



人口減少に加え、節水機器の普及などにより水需要は減少傾向が続いていましたが、令和9年度のホテル開業を機に増加となる見込みです。以後の年度においてもホテルの稼働率によって増加が期待されるが、本計画においては一定の稼働率による推移を見込んでいます。

料金収入の見通し



人口減少や節水機器の普及などによる水需要の減少から、料金収入についても減少が続いているが、令和9年度のホテル開業を機に料金収入も増加が期待される。